

## 第36回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会を主催して

第36回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会会長 井坂 恵一  
東京医科大学産科婦人科学分野主任教授

平成27年1月24日と25日の2日間、第36回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会を東京都新宿区のハイアットリージェンシー東京において開催させていただきました。総勢497名の先生方に参加いただき、例年より寒さ厳しい天候のなか熱い議論が繰り広げられ、無事に本会を終了することができました。これも皆さまのご支援の賜物と感謝申し上げ、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

初日のワークショップでは子宮腺筋症の治療をテーマとし「子宮腺筋症に対する温存術」とのタイトルで4名の新進気鋭の先生方にお話いただきました。シンポジウム1では「子宮内膜症の術後療法」をテーマに、LEPやジェノゲストなどによる再発抑制への取り組みが討論されました。また、特別講演として浜松医科大学の杉原一廣先生に「ペプチド創薬」についてご講演いただき、近未来の夢のある治療法の可能性が示されました。2日目のシンポジウム2では「深部子宮内膜症の手術療法」をテーマに、各施設のさまざまな工夫などが示され活発な議論がなされました。招請講演としては「Diagnosis and Management of Endometriosis using Da Vinci Robotic Laparoscopy」と題し、Texas Institute for Robotic SurgeryのDevin M. Garza先生に子宮内膜症に対するロボット支援下手術の現状に関するご講演をいただきました。また、教育講演として、島根大学の京哲先生に「卵巣チョコレート嚢胞の癌化を考える」をお話いただきました。一般演題も総数101題にのぼり、基礎から臨床まで幅広い話題を提供していただきました。

近年、子宮内膜症は、その罹患者数が増加の一途をたどり、生殖年齢に好発することから少子高齢化社会の現代において社会的にもいろいろと問題を引き起こしています。その病態解明も進み、さまざまな新規治療法も開発されていますが、まだまだこの疾患の克服には多大な労力が必要です。本会がその一助となり、少しでも皆さまのお役に立つことができたのであれば、と思う次第です。

最後に、本会の開催にあたり、多大なるご協力とご尽力をいただきました同窓会の皆さまおよび医局員一同に深甚なる感謝を申し上げ、日本エンドメトリオーシス学会の益々の発展を祈念しつつ、学術講演会のご報告とさせていただきます。まことにありがとうございます。

平成27年4月吉日